

奈良 いのちの電話

2024
春
第396号

特集 “さまざまな声に出会って”
～ part I 「経済・仕事」～

社会福祉法人 奈良いのちの電話協会

事務局/〒631-0816 奈良市西大寺本町8-27



TEL : 0742-35-0500

FAX : 0742-35-0533

e-mail : nid@nara-inochi.jp



饅頭まつり 林神社（漢國神社内）

いかにせんこしきに蒸せる饅頭の
思ひふくれて人の恋しき
(七十一番歌合)

写真 林神社提供 (2020年4月19日撮影)

風鐸



3Dプリンターは10年余り前にパソコンショップに現れまして店舗を賑わしていました。暇があれば3Dプリンターを見に行っただけですが、5、6年で姿を消してしまいました。今では、どここの店舗に行きましても展示していません。手に入れるにはインターネットショッピングで購入するしかありません。それは、3Dプリンターはソフトウェアがなければ自分の目的とするものを作れないからです。その為には「3D-CADソフト」または「3Dグラフィックソフト」を使いこなす必要が有ります。

私も数年前に安価な物を入手しました。

最初の2週間は問題なく動いてくれましたが、その後は分解、組み立て、調整と繰り返して使っていました。今の3Dプリンターは3台目になりますが順調に使えていました。しかし、2年程前からソフトのライセンスが切れたので使えなくなりました。半年程前に無償のソフト「Free CAD」を見つけまして現在それを使いこなすために四苦八苦しています。

久しぶりにネットで3Dプリンターの欄を見ていたら16色のフィラメント（3Dプリンターの材料）の使える機械が販売されていました。1個のカートリッジに4個のフィラメントが入りまして、そのカートリッジを4台接続できるようです。これで16色の物が作成されるようです。作成速度も5倍とか6倍と高速になっています。現在持っています3Dプリンターですと20cmの立

方体で10時間余りかかりますし、色は単色です。この16色の3Dプリンターは多色で印刷される事を思い出すと、何か今までにない楽しいものを作ることができるのではないかと考えてしまいます。

人生100年時代、残り26年楽しく過ごしたいものです。私の叔母が今年103歳で北九州小倉で健在です。私が高校1年の夏休みに父が亡くなりました後、生活の面倒を見ていただいたのが叔母です。九州の田舎から大阪に行くように促してくれたのも叔母です。叔母が言うには「死んだら遺骨を京都のお寺に持って行ってほしい。」とのこと。叔母より先に死ぬわけにはいきませんので、残りの時間、楽しみが見つかり良かったです。

皆さん元気に100歳まで生きましょ
う！ (雅)

奈良いのちの電話設立45周年特集

“さまざまな声に出会って”
～ part I 「経済・仕事」～

「奈良いのちの電話」が設立されて45年になります。電話を通して相談者の様々な気持ちをお聴きしてきました。相談員がその思いをつづったコラムが広報誌に登場したのは1982年（昭和57年）4月号からでした。当時の流行語に「ネクラ」「心身症」がありました。時代を反映する相談電話も多くあります。

その後40余年電話相談を継続する中で、広報誌コラムの「相談の窓口から」（～2010年3月まで）と「相談の現場から」（2010年夏号～現在）に掲載された様々な相談を振り返ります。特集記事としては「経済・仕事」「保健・病気」「人間関係」「家族」の4つのテーマに分けてお送りします。今回は「経済・仕事」について取り上げます。

45年の流れ		流行語 社会
第一群	設立から15年(1979年～1994年) 自殺者数平均21,938人	第2次オイルショック 心身症 新人類 男女雇用機会均等法 フリーター 3K 3高 過労死 バブル崩壊 リストラ 就職氷河期 インターネット
第二群	設立から30年(～2009年) 自殺者数平均28,805人 平成10年からは14年間連続で 3万人を超える	阪神大震災 勝ち組・負け組 IT革命 スローライフ 自己責任 負け犬 格差社会 自殺防止対策基本法 ゆとり世代 事業仕分け リーマンショック
第三群	設立から45年(～2024年)	東日本大震災 子ども食堂 ブラック企業 闇営業 コロナ流行 Z世代 ジェンダー平等

第一群から バブル崩壊 リストラ 就職氷河期を背景に

①大学を出たけれどバブル崩壊で仕事が見つからない、10年間、短期のアルバイトしかない

卒業してから10年間、仕事についても長続きせず転職ばかりしている。2、3日で終わるバイトをしているがそれももうすぐ終わる。周りの人はちゃんと会社員になっている。自分は運が悪くてこんな歳になってしまった。

②経済大国と言われているが貧しさと孤独から瞑想の領域に入る青年

貧しかったです、いつも空腹でした。思い浮かべるのは食べ物のことばかりでした。物心ついたときは、友人もなく一人ぼっちでした。まともに学校にも行けませんでした。信じてもらえないかもしれませんが、僕は4歳の時に瞑想の域に達したんです。あらゆる宗教を卓越した導師として生きていきたいんです。

③バブルがはじけて社会全体に不景気の波が押し寄せ、求職活動を続けるがなかなか良いところがなく、やがてうつ病になった

就職ができない。どこも断られた。何か資格を取ろうと予備校に行ったが思うようにいかなかった。こんな歳になってしまった。うつ病にもなってしまった。妹はすでに就職して会社で働いているので、父からは早く就職しろと言われていました。

第二群から 勝ち組・負け組 IT革命 負け犬 格差社会 ゆとり世代 事業仕分け

④夫はずるい。仕事を返して

介護のために離職した。7年間のブランクで再就職しようとしたが、社会情勢が変わって思うように復職できない。そのつらさや焦りを夫は全然わかってくれない。

「まあ、しばらくゆっくり休めよ」って言うのです。夫はずるい。私のつらさや痛みを共有したら損だと思ってい

るんです。もううんざりです。

⑤仕事が無く毎日の借金取りに悩まされる男性、妻とは離婚

「景気が悪くなって、このままじゃ、にっちもさっちもいかんわ。夜逃げしても逃げ切れんし、死ぬしかないのかなあ。毎日借金取りが押しかけてきて家内もたまらんようになって、離婚届を置いて家を出たんですわ。まあ、今のわしにとっての問題は、首をくくらなあかんとこまで追い込まれているということや。食欲もなくなっているの。健康とは言えんわ」

⑥自分は一流企業のコマの一つだと知り、転職したが誘ってくれた社長の急死、跡継ぎの現社長の勧めで現在の会社に勤めたが、自分をやめさせようとする仕打ちに負けずに働き続けようと思う

アルバイト先の社長に是非、うちに来てくれと誘われました。大企業ではコマの一つに過ぎないと思ったので転職しました。全力で仕事に取り組んで皆からの信頼を得ていたのに、社長が事故で急死したんです。息子が次の社長になってから僕への妬みもあって意見が合わずに居づらくなりました。不景気で経営不振になってリストラが始まったんです。でも家族のためにリストラに負けずに頑張ります。

⑦会社の倒産から妻と離婚、死ぬしかないと話す男性

脱サラして自営業を始めたんです。1年分の給料を一日で稼いだこともありました。しかしパブルがはじけて倒産、妻は「もう、いやって」子どもを連れて実家へ帰ってしまいました。「金の切れ目が縁の切れ目、この薄暗い部屋で俺は何を考えているんだろう…もう死ぬっきゃないかなあ」

⑧夫がリストラにあって失職したが、再起を信じる妻からの相談

もうお先真っ暗です。夫は5年前、会社が倒産、やっと今の会社に入ったのに不況でリストラされました。「会社は社員を使い捨て。どうして弱者ばかりいじめられるのですか」。夫は、自分の存在価値も感じられなくなって一日中ごろごろしてテレビばかり見ている。イライラして私まで落ち込んでしまいます。

第三群から ブラック企業 コロナ流行 Z世代

⑨30歳 リーマンショック 資格に挑戦 ゆとり世代は使えない

学生時代にリーマンショックで内定を取り消されました。そのあと就職試験を受け続けましたが、ことごとく落ち、自分は社会に役に立たない人間なんだと感じました。結局派遣で働き始めた会社ではパワーハラを受け、「ゆとり世代は使えない」と言われました。好きでゆとり世代に生まれたんじゃないんですけれどね。自分に自信をつけるためにいろいろと資格を取っているんです。

⑩コロナで業績不振になり56歳でリストラされ、その上家庭崩壊

若い時から仕事頑張ってきたのにコロナで業績不振に

なって切られた。この年ではハローワークに行ってもなかなか難しい。家にいる時間が増えて、嫁さんとも衝突が増えた。娘も母親について出て行ってしまった。家族のために頑張ってきたのに、気がつけば一人になっていた。

⑪コロナで仕事が無くなり生きる道を模索する男性

新型コロナについて、連日報道されていた頃、コロナで仕事が無くなった。知人に頼ったが、知人にも雇う余裕がない、倒産するかもわからんと言われ、八方塞がり死めしかないと思った。九州では仕事があると聞いたので、知らない土地へ行く不安はあるが一歩を踏み出すべきか迷っている。

(ここに掲載された事例は実際の電話の内容そのままではありません)

相談から見えてくるもの

悩みを抱えて苦しんでいる人たちの生きづらさは、その人個人の問題にとどまらず、経済・社会の状況から大きな影響を受けています。経済発展を遂げ、みんなが便利で豊かな社会を享受しているかのようにみえるけれども、生まれた年や性別、地域、家庭環境などの影響で必ずしも思い描いた職業、生き方を選べなかった人たちからの相談がたくさん寄せられています。日本は「やり直しのきかない社会」といわれ、ずっと低い収入にとどまっても自己責任と言われてきました。逆に、大企業に就職して家庭を持ち順風満帆に見える人でも、長時間労働や責任の重さ、職場の人間関係などで心を病む人もいます。また、情報通信技術 (IT) がコロナ禍の影響でさらに進化し、対面だけでなくオンラインで仕事や勉強ができる社会になった反面、仕事でデジタル機器を使いこなせなくて取り残され、鬱になって退職を余儀なくされた人々からの相談もあります。

「多様な働き方の実現」「女性が輝ける社会」という名のもとに広がった非正規雇用は、低賃金で景気の調整弁として利用され、コロナ禍ではサービス業の非正規女性が真っ先に解雇されていきました。コロナのため、看護や介護の仕事は働く環境がさらにきつくなり、燃え尽き症候群などで離職せざるを得ない人が増えました。性別にかかわらず、人口減少で今後労働人口も減少していくことが予想されるなかで、雇用する側も離職者を減らすために、メンタルヘルスの向上やパワーハラスメントの防止、労働環境の改善向上、働き方の多様なスタイルへの対応が必要になってくると思われます。

コロナ禍で業績不振になった企業がなかなか業績を回復できずに苦しむところも多いようです。コロナ関連の融資の返済などで資金繰りを維持できず、倒産する中小企業の経営者やその家族から自死に関する相談が寄せられてくるのが、今後も続くだろうと思われます。

奈良いのちの電話では、働く人たちのそれぞれの立場や状況から生まれる苦しさ、つらさ、くやしさを感情を受けとめる役割としての電話相談の大切さをこれからもつないでいきたいと決意を新たにしています。 (広報WG)

多様性の時代に

つなぐ 16

～ 音をつなぎ、人をつなぐ ～

奈良教育大学 学長 宮下 俊也

私の専門は音楽科教育学です。学校の音楽の授業をどうつくり、音楽で子どもたちの感性をどう磨いていくかを研究してきました。もし生まれ変わってもこの分野を研究したいと思っていますが、もうひとつ、作曲家になれたらいいな、という気持ちがあります。実は学生の頃から趣味で作曲をやっているのですが、恥ずかしいので世には出さず、研究室のピアノの下の段ボール箱に隠しています（私がこの世を去った時、どなたか演奏してくださったら嬉しいです）。

ところが、ある縁で、新設された五條市立西吉野農業高校、またそれに続き、本年4月に開校する橿原市立白檀小学校と、2年前に新設された奈良県立大学附属高校の校歌を作曲させていただくことになりました。私にとっては夢のような話です。

歌はメロディ（旋律）が命です。一つひとつの音がつながってメロディができていくのですが、私の自己満足ではなく、小学生や高校生が楽しく、そして自分の学校を誇りに思い、生涯にわたって歌えるようなメロディにすることは、感性育成の極致であり、私の研究の集大成であるように思いました。

もちろん、リズムやハーモニー、テンポやダイナミクスも重要ですが、歌詞が表す心情に寄り添って、ドからレへつなぐのがいいのか、あるいはドからミへつないだほうがより寄り添えるのか、わずかな違いによって、音のつながりが生み出す質感は全く変わってくるものです。その質感は、楽曲全体の質感となっていきますが、これは「音楽の側（構造）」のことです。一方、楽曲を演奏したり聴いたりする「人の側（心）」にも影響をもたらします。その究極は感動です。

そして、影響を受けた個人と個人が感動を共有したり、あるいはそれぞれが持つ異なる感性が、ぶつかったり調和したりして、人々と楽曲に価値が与えられていきます。つまり、音と音とのつながりが、やがて人と人をつなぎ、社会を豊かにしていくこと、それこそが音楽の持つ最も重要な意義であると、私は思います。

奈良すこやかテレフォン研修会

2023年12月10日

「子どもを取り巻く問題を学ぶ」

～ 子どもの気持ちを聴くために ～



奈良県自殺対策連絡協議会座長で当協会自殺予防委員長の神澤 創先生をお迎えして開催しました。

子どもをめぐる問題（ヤングケアラー・不登校・自傷行為・自殺）を中心に、そこから見えてくる子どもの危機的状況に対して、どのように受け止め子どもに関われば良いのかを考えました。そして、電話相談員である私たちは、子どもに「教えてもらう」「ついていく」「一緒に考える」という姿勢を持つことが、子どもの話を聴くことにつながることを学びました。（Y・K）



すこやか相談員の集い

2024年3月10日（日）、すこやか相談員の集いが開催されました。退任される専門相談員の長年にわたる関わりや想いをふり返り、感謝の気持ちを込めて花束と記念品を贈りました。出席者もすこやかテレフォンへの想いを出し合うなかで、親睦を深めることができました。（Y・K）



奈良すこやかテレフォン相談時間変更のお知らせ

2024年4月1日から

土・日・祝日は13:00～16:00になります。

平日（月～金）は従来通り18:00～21:00

第9回 “よりそいの会あかり” スタッフ養成研修

自死遺族支援“よりそいの会あかり”では2年に1度、スタッフ養成のためのファシリテーター養成研修を実施しています。あかりのファシリテーターは、自助グループのサポート、自死遺族からの専用電話の相談や対面相談を行います。今回の研修には相談員から10名の参加申し込みがあり、2023年11月25日～2024年2月25日まで4回にわたる専門研修が行われました。講師は西大寺清浄院住職 佐伯俊源氏と臨床心理士 渡邊登志明氏です。研修終了後はインターンとして実習と訓練を重ねたのち、あかりのスタッフの一員として活動していただきます。（A・M）